



校章の由来

県立三中を意味した三つの剣を組み合わせ、初代大屋校長の考えで剛健・真剣・勤儉の三けん、更に智・仁・勇の三徳を兼ねた象徴として用いられて来た

厚高同窓会報

<第47号> 2013年(平成25年) 5月1日(水) 発行
<http://www.atsukou-dousou.org/>

旧制中学卒業生 3,915名
新制高校卒業生 25,393名
合 計 29,308名

発行 神奈川県立厚木高等学校同窓会
編集 厚木高等学校同窓会広報委員会
TEL 046 (221) 4078
FAX 046 (222) 8243



▲祝賀会の大トリは応援団OBのリーディングによる校歌



▲記念事業の1つ、同窓会より学校に寄贈された大応援団旗



▲記念コンサートには、現役生も参加



▲先輩も後輩も共に肩組み合って校歌でフィナーレ



同窓会会長 石川 範義 (高10回)

新たな10年へ——絆

平成24年度第65回厚木高校卒業式が3月1日に挙行されました。厳かに肅々とそして凛としたとてもすばらしい記憶に残る卒業証書授与式でありました。会長としての出席は2回目になりますが私の役目は同窓会を代表して祝辞を申し上げるとともに、同窓会よりの「茅賞」を贈ることであります。名譽ある「茅賞」は、第4代同窓会長でありました茅誠司氏(中11回、元東京大学総長)が文化勲章を受賞したことを記念して昭和40年度に創設されました。学業・人物ともに優れた生徒1名に与えられるものであり、厳しい選考で過去には該当者なしの年もあったようです。第1回の受賞者は中村郁氏(高18回、東京大学理学部卒、北海道大学教授)であります。ちなみに昭和39年(高17回)以前の卒業生には「岡崎賞」の方がなじみがあるかもしれません。この「岡崎賞」も第3代同窓会長の岡崎勝男氏(中9回、元外務大臣、初代国連大使)の名を冠したものです。

さて、昨年度は創立110周年ということで本部役員・理事を中心に各支部・各クラブOB会等にもご協力をいただき、実行委員会体制で1年間取り組みさせて頂きました。おかげさまで7月7日の式典総会をはじめとして、3月2日のさくら戸陵会主管のもと開催されたオペラ・森口コンサート(杜のホールはしもと)まで全ての行事が大盛況のうちに無事幕が引けましたこと、あらためて同窓会諸兄のご支援ご尽力に感謝申し上げます。

100周年以後の10年で同窓会組織は地元厚木に強固な厚木連合戸陵会が創立されたこともあり飛躍的に強化されて参りました。さらに新潟戸陵会、関西戸陵会が誕生して25支部となりクラブOB会同期会も活性化してきています。そして今、横浜会が発展的解消され横浜戸陵会にならんと、また仙台を中心に東北戸陵会の設立の動きも見えてまいりました。3年後には卒業生がのべ3万人を数えることとなります。新たな10年へ共に歩を進めましょう。

『相模川の西側の川原に立つて明日を迎えるんだ。故郷(ふるさと)とは風景のことだけではなく絆のことだと僕は知る。』
これは劇作家横内謙介氏(高32回)の作品「ホテルカリフォルニア——厚木高校物語」のフィナーレ場面の台詞です。

年代を超えそれぞれが待ち得る絆は永遠に不滅です。さらにこの絆は厚木高校同窓生という縁でつながっています。「たよりにする」「てがかりになる」縁という言葉にはこのような意味もあります。

私は「同窓の縁」というものをもっと大事にしていきたいと思っています。新たな10年へ——。

明治35年(1902年)4月13日、母校・県立厚木高校は、愛甲郡の人々の熱き思いに支えられ、戸室ヶ丘に神奈川県立第三中学校として開校しました。「坂の上の雲」に代表される「明治」という時代に神奈川県立第三中学校創立略史の起稿者である霧島久圓氏は、第三中学校の果たすべき使命を『未来永遠に本校より清々たる多士を輩出し、直接間接に国民利福の増進を図るに至は勿論なり』と記しました。

その後、大正、昭和、平成と時代は移り、初代大屋校長や霧島久圓氏の母校に寄せられる思いは、「世紀を超えて」幾多の同窓生の胸中に宿り続けてまいりました。2012年、創立110年という節目に数々の記念行事が盛會裏に開催され、我が母校「厚木高等学校」の伝統を、次の100年に向けて確かに引き継ぐことができたものと確信しております。

180名もの参加で盛り上がる

記念地引綱大会

創立110周年の記念行事の第一弾として、5月4日(金)、御所見戸陵会(平成25年3月「藤沢戸陵会」に改称)の主管により鶴沼海岸・堀川網にて「地引綱大会」が盛大に開催されました。当日は、前日の雨もあがり五月晴れの中、参加者が約180名と

世紀を超えて

110周年記念事業報告



過去最多の参加者数となった地引綱大会

例年の2倍近くの人数が参加し、相模原戸陵会や愛川戸陵会、睦合戸陵会のようにマイクロバスなどで大勢の同窓生が出席した支部もあり、太平洋の大海原に向かって声高らかに「校歌」を斉唱しました。

参加者のコメント

支部主催事業であった頃の同窓林整備(下刈り作業が主)の帰り、小島菊代先生(中35回)宅の庭で慰労会を行った際、「愛川が山だから御所見は海だ!」(故)内野樹美

平成24年6月4日(月)、絶好のゴルフ日和となった本厚木CCにおいて「創立110周年記念ゴルフコンペ」が160名の同窓生が参加して、盛大に開催されました。出場選手は、記念大会にふさわしく高4の大ベテランから、高53の若手まで幅広く、女性陣も数多く参加し、ラウンド後のパーティには第28代田中均校長も駆けつけられて記念大会に華を添えました。

好天の名門コースにて開催 記念ゴルフコンペへ

参加者のコメント

厚木高校創立110周年記念事業のゴルフコンペで幸運にも優勝できました。私にとっては160名という多くの方が参加した大会で優勝できたということはラッキーでしたし、光栄なことだと思っています。当日は天候や良き同伴競技者に恵まれて、あまり緊張せずにラウンドができたことが

歴史と思い出を一堂に 記念写真展

記念写真展

広報委員会並びにさくら戸陵会主管として「記念写真展」が5月15日(火)から21日(月)にかけてイオン厚木店7階の市民ギャラリーにて開催されました。この催しは、創立100周年を契機に整理された厚木高校の歴史の写真資料を中心に、その後のダンスドリル部の全米優勝や、かながわ校歌祭への参加など、この10



「懐かしい」の一語に尽きる写真展

参加者のコメント

今回の写真展は、和洋建築の木造旧校舎やパンカラ下駄履き姿等に、古き良き時代の厚高に思いを馳せ、校風や気質、伝統、歴史を

記念植樹にバーベキュー 思い出の杜に親しむ会

毎年恒例となっている「思い出の杜に親しむ会」も110周年記念事業として、平成24年11月17日(土)に、愛川戸陵会の主管により開催されました。愛川戸陵会のメンバーは、当日

参加者のコメント

90周年事業で記念碑を建立し、同窓会長お手植えの枝垂れ桜や厚木を取り巻く各市町村の木を植樹した事を思い出す。100周年では枝垂れ桂の植樹や立て看板の制作を手伝いました。早110周年生長した木々は木陰を作り、花や実を付け、小鳥や虫たちの飛び交う憩いの場となっている。これまで思い出の杜整備に尽力された同窓有志の御霊を引き継ぎ、これからも整備を続けて下さる愛川戸陵会の皆様本当にご苦労様です。

上位入賞者			
(順位)	(氏名)	(卒回)	(戸陵会)
優勝	碓井雅巳	高15	海老名
準優勝	齋田祐造	高10	南毛利
3位	小澤俊通	高24	睦合
4位	沼田春美	高15	南毛利
5位	服部 勉	高14	南毛利
6位	高橋 力	高18	伊勢原
7位	井上 清	高18	睦合
8位	加川広志	高25	津久井

(優勝者)碓井 雅巳(高15回)

大貫 睦男(広報委・高17回)



他校を圧倒する勢いの厚高の出陣陣

11月25日(日)、神奈川県芸術劇場で開催された第7回青春かながわ校歌祭に、現役生(1年)の3名が応援のリーディングに参加。それぞれに感想を聞いてみました。

第7回青春かながわ校歌祭

参加者のコメント

「今回、現役生として初めてリーディングをさせていただき、とても良い経験をすることができました。この経験を活かしていきたいと思っています。また、来年も後輩が参加して何かを得て欲しいと思います。」

馬場 紘太郎

「自分がこの校歌祭に参加したときに感じたことは、OBの皆さんの厚木高校に対する熱い思いでした。舞台の前で、緊張したけれど、ここに来ている人たちにこの思いを伝えたいという気持ちで、指揮をしました。今回、とても貴重な経験をさせていただきありがとうございます。」

浜田 匠



110周年のメイン行事 総会、記念コンサート、祝賀会

110周年記念のメイン行事として、第一部110周年記念総会、第二部記念コンサート、第三部祝賀会が開催されました。



記念コンサートで歌う梶井氏とピアノの河邊さん

平成24年7月7日(土)、会場となったレブランドホテル厚木には、総勢600名もの同窓生が集まり、久方ぶりの再会に、和気藹々のうちに式典等が進みました。

当日は、110周年の記念事業の1つとして新調した「大応援団旗」の披露があり、厚木高校の歴史に新たな1ページを刻むこととなりました。

記念コンサート出演者

梶井龍太郎(高28) 声楽Ⅱテノール、河邊亮子(高37) 演奏Ⅱピアノ、森口賢二(高44) 声楽Ⅱバリトン、山脇涼(2年E組) 演奏Ⅱバイオリン



リーディング初参加の現役生3名

秦 丈留

「厳粛な場でリーディングをするというところで、本番が始まるまでの緊張感やワクワク感は普段の生活ではなかなか感じられないのだったので、素直に楽しかったです。新しい歴史の1ページになった嬉しさがあると同時に、今後僕たちの後に続いて欲しいと思います。」

参加者のコメント

「なんだかんだといつても、やっぱり応援団。新調された応援団旗も大きく立派。昔操った杵柄」とばかりに、演舞を披露する先輩諸氏の厚高生には、懐かしい思い出ですね。

私も入学当初はイヤイヤやってきた応援練習。自分の部活動には関係ないし、なんで練習までして野球部の応援をするのか。答えはないままに強制的に繰り返されてきた。でも、そんなお陰で、校歌だけは今でもよく覚えていて、年齢もあつてか、最近では毎年高3時代のクラス会を開催しています。そんな時にもこの校歌が大活躍しています。

菅野 敬子(広報委・高18回)

記念募金活動と 学校施設の整備事業

① 図書館跡地周辺の整備

この整備事業は、昭和32年に創立55周年を記念して建設された「独立図書館」が55年目の年である平成23年12月にその役目を終え、取り壊されたことから、その後の跡地についての整備を学校から依頼された。同地には芝生が施され、東南の角地には「三剣」のモニュメントが中庭から移設され、まさに「戸室の丘辺、旭日さして」を体現する場所となりました。

また、正面周辺のフェンスも従来のネットフェンスから、剣先格子の重厚なフェンスに模様替えし、歴史ある伝統校に似つかわしい佇まいとなりました。

さくら戸陵会 記念コンサート

記念コンサート

平成25年2月3日(日)、相模原市緑区の「杜のホールはしもと」には、石川範義同窓会長、田中均校長をはじめ、たくさんのお客生がご家族や友人たちと、森口賢二氏(高44回)や渡邊史氏のソプラノの美声を堪能し、在校生のコーラスに応援の拍手を送りました。

会場の「杜のホール」の客席は満席。昨年からの準備を進めてきた大井理恵子副会長(高18回)を中心にさくら戸陵会のメンバーがコンサートの運営を担当し、在校生や大澤教頭先生も加わって、在校生、学校、同窓生が一体となった110周年にふさわしいコンサートとなりました。

② 同窓会記念資料室の整備

昨年、さくら戸陵会の有志の尽力で、厚高校舎1号棟3階の一室に設置されていた同窓会記念資料室が、歴史と思い出を発信する拠点として一新され、希望に応じ常時入室鑑賞できるようになりました。室内には、創立100周年の際寄贈の和洋建築の木造旧校舎の模型(高18回・菅野敬子製作)を始め、卒業アルバム、校旗等を展示し、壁面には、厚高をモチーフとした石井清氏のバスケット画や、写真パネルを掲示しました。さらには、昨年、ご子息から寄贈された茅誠司先生の日記や革のトランク等を特別展示しております。

③ トレーニングルームの改装

同窓会の支援により第2戸陵会館のトレーニングルームが改装されました。今までの設備は古く汚かったが、今回の改装により生徒たちは新しくきれいな設備でトレーニングに励むことができるようになりました。

なお、引き続き母校支援のための募金活動を平成26年3月31日まで継続してまいります。

〈募金の払込方法〉

- 1 金額/一口 5,000円(口数に制限はございません)
- 2 振込先金融機関/
 - ① 横浜銀行 厚木支店 普通口座番号 6082219
 - ② みずほ銀行 厚木支店 普通口座番号 1430129
- 3 口座名/厚木高校記念基金(アツギコウコウキネンキキン)

「厚木高校の近況について」



文科省SSHに指定
25年度から5年間

校長 田中 均

厚木高校は、平成25年度から5年間、平成29年度まで、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SHS)に指定されました。本校の取組みは、ヴェリタスⅠ(1学年2単位)、ヴェリタスⅡ(2学年2単位)、ヴェリタスⅢ(3学年1単位)を柱とし、それぞれの科目の中で、生徒は「科学技術と自然環境」というテーマで探究活動を行い、その成果を年間4回発表し、質疑に答えるという学習を実施します。年度末には全員が英語で発表し、英語による質問に英語で答えます。

高度に情報化された国際社会で次世代を担うリーダーには、自ら課題を発見する力、それを迅速に解決する力、解決した課題を分かりやすく表現する力と質問に堂々と答える胆力が必要であり、こうした力を厚高生に付けたいと考えております。生徒全員に確かな学力を養うだけでなく、その学力を活用する力を育成する趣旨で、ヴェリタス(ラテン語 VERITASで、真理という意味)という科目を設定しました。

こうした探究活動を日常的に行う生徒のためにスーパーサイエンス研究室(SSR)を設け、活動を行っている生徒には各種の科学コンテストに出場させたいと考えています。昨年度は厚木高校SSR(平成24年度から活動を始めています)の生徒が東工大バイオコ

ンテストに出場し、高校生の部で優勝しました。さらに、夏休みにはSSセミナーを実施し、理科や数学の発展的学習や、実験実習を中心とした探究活動の機会を設けております。

このほか、「発展的な内容を含む教材の精選」、「スピーディーな授業展開」、「思考力、判断力、表現力を育成する生徒の活動」を3つの柱に職員が一丸となって授業改善に取り組んでおります。職員の授業に対するチーム力が向上した成果と考えますが、今年度の入試では現役、過年度卒を含めて国立大学に109名が合格するなど、進学実績が確実に向上しております。今後とも、文武両道、質実剛健の校風を継承しながら、生徒に教育の質を保証してまいりたいと思っております。

学校情報

本年4月の異動で川端麻穂副校長が綾瀬高校長に、大沢利郎教頭が中央農高副校長にそれぞれ栄転になりました。大沢先生には22年から3年間、同窓会の行事や会報の取材でお世話になりました。新副校長には厚木清南高より宮内克人先生、新教頭に港北高より木村則夫先生をお迎えしました。さらに、厚高出身の先生として希望ヶ丘高より壺井尚子先生(高37回)と新採用の松田浩幸先生(高54回)が着任されました。



歴史と伝統が支える「絆」

副校長 宮内 克人

神奈川県の中央に位置し、111年という長きにわたり社会を牽引する人材を輩出し続けている高校、これが私の抱く厚木高校のイメージです。

この歴史と伝統を持つ厚木高校にこの度、厚木清南高校より副校長として着任することとなり、今その責任を痛感しております。教員としてこれまで培った経験を大いに活かして、これからも新たな世紀の牽引者となる人材を育成することに全力を尽くしたいと思っております。

1年という長きにわたり社会を牽引する人材を輩出し続けている高校、これが私の抱く厚木高校のイメージです。

この歴史と伝統を持つ厚木高校にこの度、厚木清南高校より副校長として着任することとなり、今その責任を痛感しております。教員としてこれまで培った経験を大いに活かして、これからも新たな世紀の牽引者となる人材を育成することに全力を尽くしたいと思っております。

この4月の異動により港北高校より着任いたしました。応接室に入ったところ、右側のガラスケースにおびただしい数のトロフィー、盾が飾られ、創立110年を超えた歴史と輝かしい成果の重みを感じた次第です。その歴史の一部を教頭として担う大役をいただいたことを大変光栄に感じますとともに、その重責もひしひしと感じております。



「質実剛健」「文武両道」を成長の糧に

教頭 木村 則夫

まじい線に見入ってしまいました。「質実剛健」は、現代でも全く色あせていません。それどころか、リーダーの資質として最も求められているものです。本校はSSHの指定も受け、学力向上進学重点校として、次世代のリーダー育成のため全力を傾けています。開校以来の「質実剛健」「文武両道」の精神を生徒にしっかりと伝え、次世代のリーダーにふさわしい人材の育成に努めていくとともに、自身も向上心を忘れず、生徒と共に成長していこうと考えています。若輩者でございますが、ご指導ご助言賜りますようお願いいたします。

茅賞

第45回茅賞に

辰野里納(りな)さん



文武の両面においても最も優秀な生徒に贈られる茅賞。今年度は、辰野里納さん(3A)が選ばれた。このことについて辰野さんに話を聞くと、「最初は、伝統のある茅賞に自分が選ばれたことにとても驚いた」という。「正直、私は人前に立ったりすることが得意ではなく積極的なタイプでもな



文化会館大ホールを会場に記念式典

大山の変わらぬ姿に 迎えられて



壺井 尚子 (高37回)

平成25年4月、希望ヶ丘高校より母校である厚木高校に着任いた

しました。
高校卒業後、大学では物理学を学び、会社員などを経て、平成20年4月に県立高校の教員として採用されました。将来を考え出した高校時代から、この仕事に落ち着くまでかなりの回り道をしました。が、まるですぐろくのふりだしに

戻ったように、母校に戻ってきたという感じがいたします。
高校時代は、数学の授業中に気分が悪くなり、保健室に行くと「厚高生がそんなことではどうするの」と養護教諭に叱咤されました。こんな私が母校の教員となり、きつと当時の先生方はびつくりなざっていることと思います。
在校生・保護者並びに同窓会員の皆様のご期待に応えられる様、精一杯頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

フレッシュさを忘れず全力で



松田 浩幸 (高54回)

新任教員として厚木高校に着任いたしました。思えば「先生になる」と決めたのは高校時代でした。高校卒業後は、健康福祉科学、体

育科教育学の学びという二度の大学卒業や民間企業勤務など紆余曲折ありましたが、母校から夢のスタートを切ることができ、大きな喜びを感じております。未熟な点は多々あるかと存じますが、皆様のご期待に応えられるよう日々努力して参ります。今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

学校主催の記念式典 生徒らによる多彩な演出

参加者のコメント

110周年の記念行事には、立场上極力参加に努めたが、卒業生だけの行事、在校生も参加の行事といろいろあり、工夫を感じた。

中でも9月27日(木)、市文化会館大ホールで行われた学校主催の記念式典は、卒業生のビデオレターがあり、感心した。

学校の伝統とは、卒業生の思いや感想を在校生に伝え、在校生も同じ校舎・校地で学んだ先輩たちの生きざまを感じ、心の絆で結ばれてこそ本物の同窓会だと思っ。応援歌にある「伝統古き三剣の」を戸陵で学ぶ現役生たちに引き継いでほしいという気持ちも強く感じられた。

高橋 将(相川戸陵会・高14回)

過去5年間の主要大学合格者数

[現役・既卒の合計数 ()は既卒者] 平成25年4月8日現在

学校名	25年春	24年春	23年春	22年春	21年春
国立					
京都	2 (2)	1 (0)	()	()	3 (2)
千葉	4 (3)	8 (1)	3 (1)	2 (0)	5 (1)
筑波	6 (1)	5 (1)	3 (1)	6 (2)	2 (0)
電気通信	2 (1)	3 (0)	5 (4)	1 (0)	3 (1)
東京	2 (1)	3 (0)	3 (1)	3 (0)	2 (0)
東京外国語	4 (0)	2 (0)	2 (1)	2 (0)	1 (0)
東京工業	10 (1)	5 (3)	6 (0)	6 (0)	6 (0)
東京農工	2 (0)	1 (0)	6 (2)	3 (0)	7 (1)
東北	3 (1)	1 (0)	2 (2)	2 (1)	4 (0)
一橋	2 (0)	1 (0)	2 (1)	3 (1)	1 (1)
横浜国立	20 (3)	17 (4)	21 (3)	19 (2)	14 (3)
国立計	80 (18)	72 (16)	71 (27)	64 (10)	61 (11)
公立					
首都大学東京	23 (5)	15 (2)	11 (3)	14 (2)	12 (4)
横浜市立	2 (0)	5 (0)	7 (1)	3 (0)	6 (2)
公立計	29 (6)	23 (2)	20 (4)	19 (2)	18 (6)
私立					
青山学院	72 (11)	63 (13)	53 (8)	52 (5)	48 (8)
神奈川	17 (3)	25 (14)	18 (8)	16 (1)	23 (2)
北里	20 (4)	16 (5)	19 (3)	15 (0)	18 (1)
慶応義塾	48 (11)	35 (6)	33 (4)	35 (4)	31 (7)
上智	55 (13)	24 (7)	32 (3)	14 (4)	15 (5)
専修	28 (8)	21 (8)	32 (12)	14 (1)	19 (6)
中央	78 (18)	62 (16)	79 (26)	67 (21)	68 (8)
東京理科	51 (9)	42 (11)	36 (4)	34 (7)	51 (7)
日本	32 (6)	27 (3)	23 (7)	14 (4)	18 (4)
日本女子	10 (1)	4 (1)	18 (2)	9 (0)	8 (1)
法政	56 (16)	46 (14)	36 (10)	38 (6)	34 (8)
明治	111 (24)	96 (23)	79 (21)	114 (21)	103 (26)
明治学院	43 (11)	43 (8)	30 (3)	24 (4)	8 (2)
立教	51 (7)	42 (11)	29 (6)	54 (7)	40 (9)
早稲田	101 (13)	94 (22)	79 (21)	111 (21)	63 (21)
私立計	1059 (210)	880 (220)	772 (207)	772 (128)	725 (147)

最近5年間の進学状況

卒業生進路	25年 高65回	24年 高64回	23年 高63回	22年 高62回	21年 高61回
国公立大学	76	69	54	62	59
私立大学	191	175	180	180	159
短大/大専	1	3	1	1	1
専修学校等	0	1	2	2	2
進学者数計	268	249	237	245	221
入学率	84%	78%	75%	77%	82%
卒業生総数	319	319	316	318	270

平成24年度 部活動の記録

吹奏学部

- ・パーカッショングループがジャパンパーカッションアンサンブルコンテスト全国大会で4位。
- ・県吹奏楽コンクールで最高位の朝日賞と金賞受賞。
- ・9月の東関東吹奏楽コンクールで銀賞。
- ・11月の第18回日本管楽奏コンテスト全国大会で優秀賞と審査員特別賞受賞
- ・25年4月6日の「第11回ジュニア打楽器アンサンブルコンクール」で初の最優秀グランプリ賞受賞。

女子バレーボール部

- ・5月の県高校女子バレーボール大会でベスト8位、6月の関東大会出場へ。

ソフトテニス部

- ・5月の高校総体県予選個人で2名が3位入賞、8月のインターハイ出場へ。団体は8位。
- ・6月の県大会で個人ベスト16位、団体ベスト8位。

山岳部

- ・5月の関東高校登山県大会で9位、11月に4年連続の関東大会出場へ。

弓道部

- ・県民体育大会兼国体予選会で5位入賞。
- ・県高校総体兼全国高校総体県予選会で個人3位入賞。
- ・県大会兼全国選抜大会県予選に男子団体準優勝。
- ・県新人大会で6位。

卓球部

- ・4月の関東高校卓球男子団体県予選会でベスト16位。全国大会予選会出場へ。

軽音楽部

- ・「ZEAH」が8月のアリオ・ハイスクールバンドバトル・グランドチャンピオン大会で3位入賞。
- ・「白いんげん豆」が11月の高校軽音楽コンクールで奨励賞受賞。
- ・軽音楽コンテスト県大会で連盟会長賞(ベスト16位)

新聞部

- ・8月の全国高校総合文化祭富山大会に出場。
- ・「厚高新聞」が25年1月、第42回全国高校新聞コンクール(大東文化大学主催、文部科学省ほか後援)で奨励賞。

茶華道部

- ・9月の関東大会に初優勝、11月の全国大会出場へ。
- ・11月の「kenobo 花の甲子園全国大会」で優秀賞受賞。

ダンスドリル部

- ・9月のスクールライブショーチアダンスバトルで4位。
- ・11月のJCDA(略称)6位。

SS研

- ・12月に東工大の「バイオものづくりコンテスト2012」で優秀高校生チーム賞と実験賞受賞。

陸上競技部

- ・第54回県高校新人陸上競技大会でやり投げ3位、100m8位。
- ・第67回県選手権大会で4×400mR8位。

支部会便り

このコーナーでは、各支部会の活動状況や会員からのコラム、同窓OBの活躍ぶり等を紹介いたします。

新潟戸陵会

二度の地震と東日本大震災

富井 京子 (高32回)

2011年3月11日、大多数の方と同様、日常の仕事の最中に東日本大震災に見舞われました。私が在住の新潟県長岡市は東北三県や北関東ほどの震度ではないものの、いつまでも収まらない揺れに、近年の震災を経験している皆の顔色が変わり、ニュース速報の津波映像に言葉をなくしていたのが思い出されます。厚木高校卒業30年余、縁あって

余りで放射性物質検査に携わるようになってからは現在に至るまで怒涛の日々が未だ続いております。「直ちに影響は無い」と、言われても不安はつるばかりの方々はいかにして少しでも安心していただけるか、答えの見えない模索をしつつ日々を過ごしている状況です。地震とは縁を切ることはできない日本、今後の対策(原発はとにかく厳重に!)について政府・自治体に頼みつつ、自らできることを見直さなければと思うこの頃です。新潟県同窓会の行事になかなか参加できなく心苦しく思っております。現在の厚木高校および同窓会の情報については、折にふれ新潟戸陵会より連絡いただいております。これからもまた機会がありましたら同窓会の活動に参加させていただきますので、よろしくお願いたします。

平塚戸陵会

活動は小粒ながら肅々と

幹事長 渡辺 兼行 (高19回)

平成24年度平塚戸陵会総会を、平成24年6月10日の日曜日に平塚市宝町の東海菜館で開催いたしました。当日は、落合会長を始めとして会員22名と大沢利郎教頭並びに曾根秀敏副会長のお二人に来賓としてご参加いただきました。形どおり前年度の事業報告と収支決算の報告を行った後、続いて平成24年度の事業計画と収支計画を提案して、全会一致で全議案を承認いただきました。続いて、本会の会則の変更を提案いたしました。本会の会則は、昭和44年1月に



大沢教頭、曾根副会長を迎えての平塚戸陵会総会

伊勢原戸陵会

厚高弁論部での思い出

青柳 貞徳 (高10回)



厚木高校を卒業し、もう何年になるでしょうか。当時の事を一生懸命に思い出しながら、そしてなつかしさをひしひしと感じながらペンをとっています。私は、当時

大勢の前で話す事は苦手でした。そんな思いが強い時、新入生が講堂に全員集った時だと思いが、話をされた足立原先生(元厚木市長、ダッチャン先生)の話に非常な感銘と、分かりやすい言葉で自然にぐっと引き込まれてしまう話し方に、ただただ驚き凄いなと感じてしまいました。足立原先生が、部活として新聞部と弁論部の担当をされている事がわかり、自分自

身を向上させるため「弁論部に入ってみよう」と決心しました。当時の弁論部は非常に活発に活動しており、「一緒にやってみようかな」と戸惑いと心配もありましたが、先輩の皆さんの親切さと和気あいあいの活動の中で、なんとか頑張る事が出来たのは、青春時代の最高の一頁だと思います。夏の合宿稽古。卒業された先輩の方々から次々と我々の指導に来られ感激した事。そして、弁論部は発表する事だけでなく文章の組み立て、原稿完成、情報入手方法、会議の進め方、世の中の動きや普段の生活の中での視野拡大、努力等々、あらゆる事を学びました。見渡すかぎりの畑の中の小さい

「きつね塚」で思い切り大きな声での発声練習。この高校時代の経験が、私の社会人としての生活にどんなにプラスになったか計り知れないものがあります。学校への登校は、伊勢原から厚木の小野まわりで、自転車通学でした。道路は砂利道でひとつもふたつも山を越えてゆく中で、雨の日、風の日等は大変な苦勞をいたしました。しかし、今思えば、この時の自転車通学が若い体力を作り、今も元氣である源となったと思っております。通学途中は、厚木東高の女子生徒も自転車通学をしており、中には毎朝東高生の時間に合わせている人もあり、青春の楽し

い1コマでもあったのでは...。会社退社後は、生まれ育った伊勢原への感謝第一にと地域の活性化に汗を流し、積極的に協力しようという決心を決め、ボランティア、地元農協の理事や社協、自治会、学校等々多くの役員をやり、特に伊勢原市全体の自治会連合会の会長等を経験させていただきました。この異業種の皆さんとの人脈は今私の大きな宝物です。これも母校厚木高校時代の戸陵健児の精神が大きな力となっていると同時に伊勢原戸陵会での世代を越えた交流も忘れる事なく今後も大事な人脈を大切に、絆を深め前進したいと思っております。

女性の社会進出が当然のこととなり、我がが高校時代に数入づつの女子が、クラスにいた時代に比して今は隔世の感があるようですが、同窓会に女子会が生まれたことは、喜ばしいことで今後の各戸陵会の活動の活性化に繋がることと期待が膨らみました。硬い議事後、懇親会に移りましたが、平塚戸陵会恒例の全参加者の自己紹介が始まりました。今年のトビックスは毎年参加される今坂清先輩(中35回)から、「松の声」(神長瞭月作詞)の替え歌

「ああ夢の世や夢の夜や 今思ひ出 入学の時は4月か春半ばいとなつかしき父母も」を披露して頂きました。一同、不思議な感覚に浸りながら、最後に落合会長の応援団振付により全員で校歌を斉唱して再会を誓いながら閉会となりました。

藤沢戸陵会

「御所見」から「藤沢」へ

会長 井出 照雄(高11回)

御所見戸陵会は設立15年の記念事業として、拡大戸陵会の設立を目指して... 御所見中学校出身者のみならず、広く藤沢市内在住の約180名の同窓有志に本会の趣意・趣旨に賛同して頂けるよう案内を出しました。

現状の御所見戸陵会では人員も限られ、先細りが目に見えています。多くの同窓有志との親睦交流を図り、併せて母校発展のために寄与して... 藤沢に戸陵会ができる事を嬉しく感じたという方、時かなわらず永眠

相模原戸陵会

役員交流会を開催

会長 館盛 勝弘(高14回)



意見交換と親睦を兼ねた役員交流会

本年1月19日、新年会を兼ねて役員交流会を開催しました。当戸陵会の役員は、39名で構成されています。これは、平成23年度年度の総会において役員改選を行い、幹事を主に高15回卒以降の若い人になつていただきました。これまでに運営にご尽力いただいた先輩方には、相談役、顧問になつていただき会の運営についてご意見をいただくことにいたしました。

兼ねて開催したものです。今年の交流会は、各人いろいろな事情もあり、27名と若干少ない出席者でしたが、名譽会長の篠崎源太郎氏(中31回)はじめ顧問の先輩方にもご参加いただき、中学時代の厚木高校の話や当時の先生の話、クラブ活動の話など楽しいひと時をすごしました。



市内全域の同窓生を対象とする新生藤沢戸陵会

てこの件を進めました。3月3日(日)の総会には新会員を盛大に歓迎し、藤沢戸陵会が益々発展するよう祈念しました。

海老名戸陵会

安政4年創業の泉橋酒造

橋場友一社長(高39回)に聞く

安政4年(1857年)創業の日本酒メーカー泉橋酒造(株)(海老名市下今泉)の6代目社長橋場友一さん(高39回)に話を伺いました。皆さんご存知でしょうか。日本酒のラベルなどを詳しく読んでみると醸造アルコールという表示がある日本酒を目にします。しかしこの表示がないものもあります。醸造アルコールを添加していないお酒を「純米酒」と言います。元来、日本酒は米と米麴で造られてきたもので、戦後のコメ不足の時代に醸造アルコールを添加する方法がとられ、それが今の時代も続いているのが現状です。泉橋酒造(株)のお酒は全量この純米酒で、全量純米酒を製造している酒蔵は全国に1200ほどある酒蔵のうちでも、わずか20〜30位しかないのではないかと話されていました。このように純米酒にこだわってお酒を造っていることは原料となるお米へのこだわりでもあるわけなのです。

「酒造りは米作りからの信念のもと全国でも数少ない栽培醸造蔵(米作りから醸造まで責任を持って行う)として取り組んでいます。太陽と大地の恵みをいっぱい受けて育った信頼できる米を丁寧仕込んでいます。当社では、地元の酒米生産者JA農業技術センターのお力を借りて『相模酒米研究会』という酒米栽培の研究会を組織しています。海老名市座間市を中心に約30ヘクタール

「地域に密着した」「環境に優しい」など、いろいろな点に配慮して会社経営をされている若き橋場社長は笑顔がさわやかで人柄が表れています。また、娘さんが現役の厚高生とのことで、さらに「えにし」を感じました。白壁の土蔵がある酒蔵の風景も一見の価値があります。「海老名に來られた折は是非お立ち寄りください。」と橋場社長は言う。



創業150年以上の歴史のある泉橋酒造と6代目橋場友一社長(高39回)

座間戸陵会

歌姫招き、心和むコンサートも
第25回総会を開催

幹事長 山本 まさる(高11回)



総会では座間出身のソプラノ歌手、稲垣貴子さんのコンサートを開催

「座間戸陵会(瀬戸宏孝会長・高4回)では、定期総会を去る24年6月24日に定例会場の座間神社「すいめい」で開催しました。今年で発足25年目を迎える当会では、毎年同窓会を兼ねた総会を行っており、予算等を審議するとともに現職の厚高の校長先生をお招きし厚高の活動状況等を拝聴してあります。また総会終了後、各界一線で活躍されておられる方をお招きし、講演等を開催し、研鑽を深めています。

一昨年は、日本テレビのウエザーキャスターとして広く知られております厚高11回卒の本原実氏をお招きし「次の地震を生き抜くために」と題する講演を行いました。今回も、全趣向を変え、女性会員の参加を増やすことも考えて、コンサートを企画しました。

座間に生まれ、座間で育ったソプラノ歌手で、会員の子女である稲垣貴子氏をお迎えし「夏の訪れ」というテーマで心和むひと時を過ごしました。同氏はその道では広く知られた方で、国内外で活躍されております。

マイクを通さず、地声で会場一杯に歌声を響かせる迫力、美しくも、情熱的な歌声は場内を圧倒しプロの素晴らしさを堪能しました。ピアノストで作曲家の徳永洋明氏の軽妙な語り口と、進行、曲の説明等は大変わかりやすく、普段なかなか接する機会が少ないオペラの一端に触れることができ、心が洗われる思いでした。



「憶い出の杜に親しむ会」の開催を前に、杜を整備

懇親会では、ゲストのお二人を交えて会話が弾み、オペラ歌手を中心に全員で「ふるさと」等を歌い、最後の恒例の校歌では、ピアノストの生の即興に近い伴奏で、深見立彦氏、大谷哲郎両氏がリードを取り合唱し、会場一体となり和気あいあいの雰囲気包まれました。

「憶い出の杜」の由来は第46号会報で、八木一郎同窓会副会長が詳述されているので皆さんよくご存じのことと思います。

このような総会他、幹事会を随時開催するとともに、ゴルフコンペを開催したり、会員相互の親睦につとめており、ゴルフにつき



毎年7月1日に「花岡事件」の慰霊供養を行っている

「小屋」と呼ぶ八木貞文(高18回)さん所有の庵、愛川にあり。山から下りた剛者共は慣れた手付きで開火裏に火を焼し、鍋をかけ、肉を焼き、17日の記念事業が成功裡に終わる事を祈って何度も乾杯。

7月1日夕、秋田県大館市花岡町にある古刹、信正寺の前を流れる花岡川の畔で、紙コップで作られた419個の灯明の中の蠟燭が点される。やがて2つの流れに挟まれて中州のようになった岸辺に、夜のとほりがおきる頃、灯明の淡い光に誘われるようにホテルが1つ、また1つとせせらぎの上に舞い始める。

きましては、昨年「長竹CC」で第5回のコンペを開催。30数名が参加し、年々参加者も多くなっておりです。

愛川戸陵会

「憶い出の杜」始末記

会長 梅澤 文明(高11回)

長い間、鎌を振るつた下刈り作業は専門業者にお願ひし、杜を見学後、懇親会で親睦を深める「憶い出の杜に親しむ会」が誕生したのは、平成21年11月22日である。

下ろし刈込みをする日である。20日前、用意した60枚の番号札では足りず作業を中断しており、2回目の挑戦になる。番号札を付けると山口君が樹木判定し、メモを取るとい段階取りであるが、急斜面で足場が悪いうえハチやヤマビルとの闘いもあり、還暦間近、還暦過ぎの剛者の作業は思った以上に難航した。堅く結んだズボンの裾からヤマビルに這入られ、吸血される者が続出したが、持ち札132まで何とか付け終えた。残りの樹は2日後、山口君が1人で山に入り179本樹立していることを調査。此処に110周年記念「憶い出の杜樹木戸籍原本」が見事完成した。(予算不足で樹の名札は仮のもの)

今年も私たちは7月1日、花岡で慰霊供養の集いを開きます。

石飛氏は戦後日本に在留していた中国人の要請を受け、鹿島に対して未払い賃金を求める交渉をすすめてきましたが、その後別グループが始めた賠償要求裁判で和解が成立しました。しかし、石飛氏が長年追跡して入手した「秋田裁判記録」(石飛監修・金子編で彩流社より10年8月刊行)により7月1日と確定できた事件発生日が、言い伝えの6月30日のままであることなど、真の事実はいまにされたままなのです。福島原発事故と同じく、「大東亜戦争」に関する責任についても、事実の究明をきつちりやらなければ、教訓や反省にならないばかりか、やっていけないことまでやっていったとされてしまう。未来に向けた真の責任の取り方が必要なのです。

厚木戸陵会

秋田県花岡で「慰霊供養の集い」

フリーライター 金子 博文(高19回)

「華人劳工」は国内135事業所に約4万人が連行されました。鹿島組花岡出張所はその1つ。食料不足やリンチなどに耐えかねて、「華人劳工」が日本敗戦前の1945年7月1日に暴動を起こした「花岡事件」を約40年にわたり調査記録してきたジャーナリスト石飛仁氏とともに毎年7月1日、信正寺本堂で慰霊供養の集いと川畔での灯明供養を97年から行っています。花岡川は中国人たちがその改修工事で働いた現場です。

「慰霊供養の集い」は、慰霊供養の集いと川畔での灯明供養を97年から行っています。花岡川は中国人たちがその改修工事で働いた現場です。

「慰霊供養の集い」は、慰霊供養の集いと川畔での灯明供養を97年から行っています。花岡川は中国人たちがその改修工事で働いた現場です。

「慰霊供養の集い」は、慰霊供養の集いと川畔での灯明供養を97年から行っています。花岡川は中国人たちがその改修工事で働いた現場です。

依知戸陵会

老頭児。パワーに期待

会長 都高 泉 (高17回)

仲間の絆を深め、裾野を広げようと、昨年開催したゴルフコンペ。今年も昨年に続けとばかりに計画はしたものの、あいにくの降雪でお流れに。

なかなかか会としての活動が軌道に乗らない依知戸陵会です。昨年10月に厚木の補助支店で開催した総会には、高7回から高30回までの会員18人が出席。70代後半の大先輩から、今年も富士登山にチャレンジするとの近況報告がある。健康志向の話題で大いに盛り上がり、他の先輩からは通販購入したレッグ・マジック・エックス(運動具)で鍛えているとの

自慢話も登場するなど、まだまだ元気な依知戸陵会でもありました。さて、昨年7月7日に開催された創立110周年の記念祝賀会では、第2部でオペラ歌手の梶井龍太郎(高28回)さんや森口賢二(高44回)さんに交じって、現役厚高生・山脇涼君のバイオリン演奏を鑑賞させていただき、思いがけず素晴らしいコンサートを楽しませていただきました。また、第3部として開催されたパーティには、依知出身の甘利明・現経済再生担当大臣(高20回・写真中央)も駆けつけられ、祝辞の後には、先輩や後輩と共に依知戸陵会のテ

ブルを囲み、和やかな懇談が行われました。パーティでは、新調された応援団旗や旧友によるエールも披露され、伝統ある母校の誇りと元気を、改めて感じる事ができました。今後は、祝賀会で養わせていただいた英気と依知戸陵会老頭児(ロートル)メンバーのパワーをもとに、会の活動をより充実させていきたいと思っておりますので、各位のご協力をよろしくお願いたします。

ブルを囲み、和やかな懇談が行われました。パーティでは、新調された応援団旗や旧友によるエールも披露され、伝統ある母校の誇りと元気を、改めて感じる事ができました。今後は、祝賀会で養わせていただいた英気と依知戸陵会老頭児(ロートル)メンバーのパワーをもとに、会の活動をより充実させていきたいと思っておりますので、各位のご協力をよろしくお願いたします。



7月7日の110周年記念祝賀会。地元出身の甘利明大臣(高20)を囲んで

荻野戸陵会

地の利、人の和を生かした 伝統あるゴルフコンペへ

事務局長 伏見 勝義 (高17回)

荻野戸陵会は、母校厚木高校100周年の年に結成されました。結成と同時に会の発展と会員相互の親睦を深めるため、どのような行事を行ったらよいか話し合いを持ちました。その結果として、荻野には3つのゴルフ場があること、またゴルフ好きの方々が多くいられたことからゴルフコンペを行うことになりました。

以後毎回のゴルフコンペでは、先輩・後輩が同じ組で周り、親睦が深まってきました。それまでは知らなかった先輩に「こんにち

は、元気でですか、練習していられますか」と気軽に声を掛けられるようにもなりました。今まで19回続いてきたコンペでは、エピソードも沢山ありました。「300ヤード近いドラコン、チョロ、数連発のオービー、池ボチャ、オービー後のホールインワン、バンカーでの多叩き」... プレー後のパーティではその話に花が咲き、笑いが絶えないひと時をいつも過ごしてきました。

このように10年にわたり脈々と続いてきたゴルフコンペですが、最近参加者が少なくなり何となく寂しい感じがしています。今後は新しい会員の方々を増やし、先輩の方々にもなるべく参加していただき、以前にも増した盛んなゴルフコンペにしていきたいと願っています。それと、荻野地区だけでなく他地区と合同コンペも開催できたら素晴らしいと思っています。

恒例の交流会に替えて 寄席での話芸を堪能!!

睦合戸陵会

睦合戸陵会が毎年秋に行っている交流会は、昨年は母校の多彩な110周年記念事業が行われた関係で中止し、その代替事業として、初めての演芸落語鑑賞会を11月3日(土)に実施しました。

当日は、本厚木駅に参加者8人が午前11時に集合し、ロマンスカーで一路新宿に向かった。到着が、昼食を取った後、落語通の特別会

員花実さんの案内で、寄席のメツカ新宿末廣亭へ。12時50分に入館したところ、椅子席はほぼ満席だった。上がり棧敷に陣取った。演目は、一人概ね15分程度でしたが、普段テレビでは聞かれないような下ネタも多く、また、夫婦漫才が行う仕草を客席も一緒に真似するなど、笑いつばなしの3時間でした。途中の中入り前には、御

年87歳の桂米丸師匠が登場。お年のため声にあまり張りがありませんでしたが、それでも昔ながらの話術で客席を大いに盛り上げていました。

時間の関係で、昼席の最後(主任は昔々亭桃太郎)までは、残念ながら居られませんでした。楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

帰りのロマンスカーの中や厚木へ戻ってからの懇親会でも、先程の落語のことで盛り上がり、時間を忘れる程でした。今年も是非、実施したいと思つた1日でした。

山岡 清(広報委員・高21回)

荻野戸陵会 ゴルフコンペの記録

Table with 7 columns: 回, 年.月, ゴルフ場, 優勝者, 卒業, グロス, 参加. It lists the history of the golf tournament from 1914 to 2004.

左の表は過去第1回から19回までのゴルフコンペの記録です。懐かしいお名前もあるのではないかと思います。何かの機会にご連絡をいただければ本人も喜ばれると思います。

TEL 046・241・1240

小鮎戸陵会

百歳の洋画家、藤江理三郎画伯
天国に旅立つ!!



昨年4月、100歳を迎えた時の藤江画伯

昨年、100歳の洋画家(厚木市下古沢在住)として話題になった藤江理三郎画伯が、去る12月18日、100歳9カ月の天寿を全うされました。

この日、実娘の容子さん(高14回)と藍さん(高15回)が、椅子に座った画伯のそれぞれの手の爪を手入れしている最中に、画伯は気持ちよさそうに寝入り、安らかに幸せそうな寝顔のまま永遠の眠りにつきました。
前日まで、意欲的に創作活動に励み、柚子のデッサンをして、「この柚子の色がおかしいので、明日新しい柚子に取り替えなくてははいけない。」と創作への気力は十分にみなぎっていたそうです。「まだまだ、たくさんの絵を描いてほしかった。」と藍さんは話していました。

藤江理三郎画伯(中25回)は明治45年(1912年)生まれ、昨年4月に満100歳の誕生日を迎えました。
昭和6年(1931年)3月に厚木中学校(現厚木高)を卒業後、

東京美術学校(現東京芸術大)に入學し、南薫造教授に油絵を学び、首席で卒業しました。
洋画家として生涯現役を通し、国内外で活躍、日展特選など入選が多数ありました。絵画の発展と普及に努めた功績から平成6年に厚木市民文化賞を受賞しています。
100歳を過ぎて、気に入ったモチーフが見つかる、食事をするのも忘れ、自宅のアトリエで集中して描いてしまい、視力は衰えず、眼鏡をかけずにキャンバスに向かっていました。
春は、自宅の庭に咲くアザミやホタルブクロなど野の花。初夏には、枇杷や桃。秋は、厚木産の柿や栗などを描きました。「春よりも秋の季節が、実りの果実が豊富なので、題材としては見つけやすい。」と話していました。
昨年、100歳の記念すべき年として、10月16日から1週間、厚木市民ギャラリーにおいて個展を開き、市民ギャラリーが始まって以来の大勢の人々が訪れました。
この個展は、数ある作品の中か

ら、画伯が気に入った静物画や人物画を選び、厚木市では初めての個展となり大盛況のうちに幕を閉じました。
現在、画伯の家には、たくさんの絵画が残されておりますが、厚

木市にこれらの絵画を展示するギャラリーが造られれば、市民のみなさんに楽しんでいただくため、寄贈したい。」と藍さんは笑顔で語っておりました。
頼住 道夫(広報委・高22回)

玉川・森の里戸陵会

110周年記念植樹を終えて

玉川・森の里戸陵会は小さな支部ではありますが同窓生の繋がり、母校への想いは強く、昨年の10月6日に創立110周年記念として、「憶い出の杜」に記念植樹を行いました。これは、伝統ある母校のますますの発展と今後も同窓会がより強い絆で結ばれていくことを願い、さらに「憶い出の杜」の存在を知ってもらうために行ったものです。

植樹にあたり、まず強風によるものと思われる倒木の片付け、植樹する場所周辺の草刈り等整備し、「花木」の木を植えました。初めて同窓林に足跡を残した会員も4

人いて、意義有る植樹となりました。
植樹の後は、都合で山に行けなかった会員も含めて記念植樹の報告会・慰労会として地元の酒に舌鼓し楽しい一時を過ごすことができました。やはり同窓会というものはいいものです。先輩後輩が同じ場所時間を共有することでさまざまな情報交換ができ、充実した社会勉強を深めることができました。今後も、こうした支部活動の内容を工夫して同窓生が顔を合わせられる機会を設けていきたいと考えております。

三橋 敬司(広報委・高18回)



憶い出の杜に花木を植樹



植樹後の報告会・慰労会

相川戸陵会

「総会だよ、全員集合!!」

会長 高橋 将(高14回)

平成も4半世紀、25年2月、相川戸陵会のメンバーが厚木の町に集結。総会とにぎやかな懇親会が持たれた。相川地区は厚木に隣接しているが、昔は純農業地帯、相模の穀倉とも言われて水田が南の平塚まで延々と続いて地区内には坂が皆無の平坦な地域である。東名高速の開通により北部に倉庫群が出現。南部も第二東名の建設で大きな変化が予想されるが、伝統的に農業中心の産業構造で戸陵会

員も他と比較すると少人数だが、それ故地域での人間関係も密で、和気あいあいの会合となった。懇親会では参加者中最高齢の鈴木久昭氏(中41)の乾杯の後ににぎやかな懇談、会話は自然と戸陵時代の出来事を中心となった。戦争、敗戦、学制改革の風の時代の勤労働員やビンタあふれる学校生活、木造校舎から鉄筋校舎への時代は、旧東高校での間借り生活、



老若男女が集った相川戸陵会総会

次代を担う精鋭が揃う我が高17回の同期会は、母校が110周年の節目の年を迎えた昨年の5月26日にレンブラントホテル厚木で4年ぶり(五輪年)に開催しました。最近の2回は2月開催でしたが、110周年記念事業が多彩に行われるその年度内で実施したい、また、我々の年になると2月では寒いという意見もあり、5月開催になったものです。当日は、恩師を含む78人が参加しましたが、これまでは必ず100人以上が参加していたため、少し寂しい感じがしました。それでも遠くは仙台(2人)や名古屋から駆けつけてくれましたが、今回は厚木市内を含む県内在住者が94%にも上りましたので、なるべく遠くから来てもらえないのが良いのですが、こればかりは仕方がないのかな?それどころか、当日配布の資料の中に欠席者からのメッセージ(67人分の近況等)を載せるなどの工夫も凝らしました。

同期会便り

高17回 4年ぶりの再会、盛大に

足立 一彦(高17回)



他県からの参加もあった高17回の同期会

そして、会を始める前に、全員で記念写真をパチリ!会では、私が司会進行し、伊藤修治さんの発起人代表あいさつ、出席していたいた3人の恩師の先生からお一人ずつお言葉をいただいた後、都高泉さんの乾杯の音頭で歓談に入りました。宴席の中では、「高校時代の懐かしい思い出」や「子や孫

業中に済ませることやパンやそば販売等へのタッチには如何に怖い上級生を出し抜くかなど数10年前にタイムスリップして若さ溢れる時間を共有し、現在の日常生活の精神面に活力を充填する機会になった。地域・生活が大きく変化する中同窓諸氏の健勝と変わらぬ連帯、母校の発展を祈念して散会した。

のこと、果ては、「介護やデイケア体験などの話」も飛び出すなど和気あいあいに楽しい雰囲気の中で、会は進みました。懇親会の最後の締めは、やはり校歌斉唱。今回は、たまたま元応援団の人たちが欠席だったため、CDに合わせる、全員肩を組んで「相州健児あわが友」を声高らかに熱唱。青春に戻った気分でした。閉会の言葉は、平本幸一さんをお願いして無事終了し、今回は4

高24回 記念行事への参加呼びかけ

日時 平成24年3月25日(日)
会場 レンブラントホテル厚木
参加者 恩師4名、同期生88名
前回は比べて40名減になりました
たが、盛会のうちに終わることができました。園田の挨拶、乾杯から始まり、小泉忠久先生、小林正義先生、石

六厚会 同期の薬剤師稲垣氏が講演

私たち高校第6回卒業生は、六厚会と称して総会は1年おきに実施し、今回は18回目のつどいである。この他に30名ほどの有志で年4回ゴルフコンペを行っているが、65歳から始めて早くも40回記念大会を迎えることとなっている。今回の総会は、24年6月1日、本厚木駅南口の上海菜館で開催され、48名が参加した。恒例の講演は、同級生で現役薬剤師の稲垣嘉則君が「健康の自己管理について」

井初男先生、濃田秀夫先生のお話を頂き、しばし懇談。110周年事業、さくら戸陵会の紹介、御所見戸陵会の地引網への誘いがありました。ゲーム大会のうち、校歌斉唱を応援団の小澤俊通君の指揮で終わりました。と題して話をした。後期高齢者の私たちにとって身近な関心事であるため、皆真剣に耳を傾け、宴会の中でも質問が相次いだようであった。応援団OBの深見君の指揮で校歌斉唱、厚木高校創立110周年の寄付金・記念行事にも積極的に協力しようとして申し合わせ、3時間のつどいを閉じた。

高27回 中川、宮崎両先生がご出席

代表幹事 平野亮二
日時 平成24年6月23日(土)
会場 レンブラントホテル厚木
参加者 64名
4年前に開催し、今後はオリンピッククイヤーに開催することになり、昨年ロンドンオリンピックの年に開催しました。当時の担任である中川先生、宮崎先生にご臨席賜り、本当になつかしく、楽しい会となりました。午後8時から2次会を駅前で行いましたが、9割近い同期生が参加し大変有意義なひと時を過ごすことができました。年齢的にも大病を患った人、転職した人、孫が数人いる人など、それぞれ人生の大きな山坂を越え

たなどといった印象でした。今回はD組、F組、H組、I組の同期生も参加し、次回2016年リオデジャネイロの時には、さらに人数は拡大するものと思われる。次回、我々第27回同期生は還暦の年齢となります。我々同期生はオリンピッククイヤーの生まれが多いので、是非、再び東京でオリンピックが開催されることを願いたいと思います。

同窓会本部役員・理事・支部役員 (平成25年5月1日現在)

【同窓会本部役員】

- 会長 石川 範義 (高10)
副会長 難波 浩 (高11)
副会長 杉田 泰繁 (高14)
副会長 曾根 秀敏 (高14)
副会長 八木 一郎 (高14)
副会長 泊瀬川 孚 (高14)
副会長 杉崎 秀夫 (高17)
副会長 小島 富司 (高18)
副会長 大井 理恵子 (高18)
副会長 廣木 孝幸 (高19)
監事 金子 輝司 (高15)
監事 松永 光弘 (高24)

【同窓会本部事務局】

- 事務局長 伊藤 修治 (高17)
事務局長次 石塚 修 (高28)
会計 足立原 泰 (高12)
会計 足立 一彦 (高17)

【理事】

- 1 八木 伸一 (中40)
2 高橋 武彦 (高8)
3 遠藤 伸安 (高10)
4 梅澤 文明 (高11)
5 町山 良行 (高11)
6 井出 照雄 (高11)
7 城所 文洋 (高11)
8 高橋 増次 (高11)
9 花上 肇 (高11)
10 高橋 力 (高18)
11 落合 重治 (高13)

【各地区同窓会支部】

- 1. 伊勢原戸陵会
会長 高橋 力 (高18)
事務局長 小川 均 (高22)
2. 秦野戸陵会
会長 八木 伸一 (中40)
事務局長 松永 光弘 (高24)
3. 津久井戸陵会
会長 奈良 雅之 (高8)
事務局長 小林 義廣 (高18)
4. 平塚戸陵会
会長 落合 重治 (高13)
幹事長 渡辺 兼行 (高19)
5. 横浜会
会長代行 長田 敬幸 (高7)
事務局 春木 健作
6. 相模原戸陵会
会長 館盛 勝弘 (高14)
事務局長 金子 輝司 (高15)
7. 座間戸陵会
会長 瀬戸 宏孝 (高4)
幹事長 山本 愈 (高11)
8. 愛川戸陵会
会長 梅澤 文明 (高11)
幹事長 大貫 邦重 (高16)
9. 川崎市多摩麻生戸陵会
会長 町山 良行 (高11)
10. 綾瀬戸陵会
会長代行 新倉 正治 (高15)
事務局長 笠間 城治郎 (高14)
11. 海老名戸陵会
会長 杉崎 秀夫 (高17)
事務局長 鶴指 眞澄 (高15)
12. 三浦半島戸陵会
事務局長 伊藤 学 (高30)
13. 大和戸陵会
会長 高橋 武彦 (高8)
事務局長 長田 靖子 (高33)
14. 藤沢戸陵会 (旧御所見)
会長 井出 照雄 (高11)
事務局長 大貫 睦男 (高17)
15. 厚木連合戸陵会
会長 石射 隆宏 (高14)
幹事長 森久保 純生 (高16)
事務局 平野 亮二 (高27)
① 厚木戸陵会
会長 遠藤 伸安 (高10)
事務局 池田 清 (高19)
② 依知戸陵会
会長 都高 泉 (高17)
事務局 大塚 憲二 (高18)
③ 睦合戸陵会
会長 下川 信好 (高14)
事務局 山岡 清 (高21)
④ 荻野戸陵会
会長 花上 肇 (高11)
事務局 伏見 清 (高18)
⑤ 小鮎戸陵会
会長 志村 昂二 (高15)
事務局 森久保 純生 (高16)
⑥ 南毛利戸陵会
会長 神崎 愷 (高13)
事務局 小淵 正志 (高18)
⑦ 玉川・森の里戸陵会
会長 高橋 増次 (高11)
事務局 山口 義章 (高15)
⑧ 相川戸陵会
会長 高橋 将 (高16)
事務局 山口 正春 (高17)
16. 清川戸陵会
会長 石川 武久 (高16)
事務局 相原 栄一 (高20)
17. 新瀧戸陵会
会長 青木 茂治 (高9)
事務局 齊藤 勝司 (高8)
18. 関西戸陵会
会長 齊藤 十内 (高16)
事務局 福本 豊 (高28)



http://www.atsukou-dousou.org/

【同窓会概要】
本部役員紹介/会則/母校教育振興基金規定/活動活性化補助金交付要綱など
【学校の歴史・校歌】
沿革の大事業/県立第三中学校創立略史/同窓会の歴史など
【お知らせ】
同朋会/同窓会会報/バックナンパーなど
【支部会のご案内】
各支部の活動報告など
【110周年記念】
創立110周年記念事業報告として、1年間の各種行事を紹介。動画や写真など、多彩な内容で同窓生の皆様に時々の情報をお伝えしています。

同窓会ホームページのご案内

同窓会本部では、公式ホームページを開設しています。
主な内容は次の通りです。

事務局便り

事務局スタッフ9名に

学校情報らんで紹介した通り、今年度は壺井尚子(高37回)、松田浩幸(高54回)の両先生を新たに迎え、9名の校内役員で同窓会の活動に協力してまいります。
・事務局次長/須藤福治(高28)
・事務局総務/吉垣 武(高39)
・同窓会名簿/吉垣 武、須藤福治
・内野英明(高30)
・木村和彦(高32)
・会計・本部/三橋 功(高38)
・壺井尚子(高37)
・会計・部活動支援基金/内田憲夫(高30)、内野英明(高29)
・中山鉄也(高29)
・松田浩幸(高54)

編集後記

◎今号は前号に引き続いた「創立110周年記念事業」特集を中心に企画編集した。昨年5月4日の地引網大会を皮切りに、本年2月3日の記念コンサートまでの記念行事・事業の総括である。
◎各行事に参加した方々に依頼した原稿の多くが予定字数を大幅に上回っており、写真を含め泣く泣く?割愛せざるを得ない。
◎それは取りも直さずこれらのイベントに参加した誰もが「感動と熱き思い」を味わったことへの証に外ならないわけで、110年の重みと培われた絆の大きさを再認識することとなった。
◎桜満開の戸室ヶ丘のキャンパスに新人生たちの歓声が響く。新たな絆の芽生えである。

平成23~25年度 広報委員会委員 (平成25年4月1日現在)

Table with columns: 役職, 氏名, 卒回, 所属戸陵会, 連絡先. Lists members of the Publicity Committee across various branches.